



林 さえこの 柏市議会 Report No. 39

《発行》2025.4.14

柏市議会議員
林 さえこ

プロフィール
このページのQRコードを
スマホで読み取ると
プロフィールが
見えます。



《お問い合わせ》

林 さえこ事務所&

市民ネットワーク・かしわ

〈事務局：水・金10:00~14:00〉

〒277-0863 柏市豊四季 631-16

TEL:080-7628-7737

3/4(火) 2025年第1回定例会 林 さえこ一般質問項目

- 市長の政策提言の実現
- 政策実現と長期的な財政運営
- パブリックコメント
- 義務教育学校計画
- 本当のインクルーシブ教育へ
- コロナ禍の障害者施設運営
- ワクチンより着実な検診を
- 職員の名刺は公費負担に
- mottECOの推進
- 周産期母子医療
- 市長と市民の懇談会
- 主体的な学びへの教育改革
- 公園のマネジメントと再構築
- 統廃合の中止 ● 授業時数

定例会が2月21日(金)から3月18日(火)まで行われました。本会議の録画は柏市のHPで見ることができます。



※「一般質問」は市の事務の執行状況の報告や計画について市長や担当部長に質疑し、市民のための適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

市民の声が届かない

パブリックコメントって...

「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針(案)」についてのパブリックコメントが年末から1か月間実施され、167人の市民から307件の意見が寄せられました。

パブリックコメントとは、行政運営の公正さと透明性を確保するため、行政が計画や方針を策定する際に、広く一般から意見を募り考慮する取り組みです。柏市でも様々なパブリックコメントを実施していますが、残念ながらこの5年間に寄せられた意見の回答人数は1桁のことがほとんどで、100人を超える市民が意見を寄せたパブリックコメントは、今回の「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針(案)」だけでした。教育政策への関心の高さが良くわかります。

ホントに望ましい?!

今回の方針では、国の定める標準学校規模を大幅に上回る“望ましい学校規模”が柏市独自基準として設定されますが、私は大規模校化の推進に明確に反対です。パブリックコメントにも、大規模校化を問題と考え、小規模校や少人数指導を推進してほしいと願う意見が数多く提出されています。

教育委員会は、パブリックコメントに寄せられた意見307件のうち35件を方針に反映させたと公表していますが、実際は文言の修正やコメントの追加など軽微な内容ばかりで、基本方針の中身はほとんど変わらないままでした。

多くの市民が同じ問題を指摘しているにも関わらず、方針を見直そうとしないのは市民意見の軽視です。学校規模に関しては、もう一度見直すことを求めました。

基本方針の中では「誰ひとり取り残さない学校教育」が掲げられていますが、市民の意見を無視する教育委員会の姿勢は、自ら作った基本方針に矛盾しているように思えてなりません。

柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針(案)パブリックコメント概要

提出者数 167人
意見総数 307件

実施日: 2024年12月28日~2025年1月28日

文言の修正やコメントの追加など 軽微な修正ばかり

基本方針について
の見直しなし

意見への対応区分(教育政策課集計)	意見数	割合(%)
(a) 意見を踏まえ反映したもの、または反映済みのもの	35	11.4
(b) 個別の事業・施策の推進に活用するもの	22	7.2
(c) 今後の検討のために参考とするもの、または関係部門計画等への反映を検討するもの	152	49.5
(d) その他(意見として聴取したもの)	98	31.9
合計	307	100

特に多かった意見の件数(独自集計・重複あり)	意見数
国の標準学校規模より大きな規模を「望ましい学校規模」と設定することへの懸念と反対	15
大規模校化への懸念と反対	46
小規模校や少人数指導の推進を求める要望	26
小中一貫教育推進への懸念と反対	48
柏中学校区義務教育学校計画についての懸念と反対	35
もつ子どもや保護者の声を聞いてほしいとする要望	21
柏第一小学校や旭東小学校を残してほしいとする要望	10

子宮頸がん検診に行こう

費用の見直し

近隣市より高額だった子宮頸がん検診費用の是正を、これまで何年にもわたって求めてきましたが、他のがん検診と共に見直しが行われ、今年度から自己負担費用が下がることになりました。また、レディース検診が導入され、乳がん・子宮頸がん・大腸がん・特定検診が同時に受けやすくなります。しかし女性医師が診てくれる訳ではないとのことなので、ハードルを更に下げるために、女性医師による検診の実施についても検討を要望しました。

柏市がん検診自己負担額(円)

検診名	受診方法	2024年度	2025年度 予定額
胃がん検診(バリウム検査)	個別	1,300	2,000
	集団	1,300	1,300
胃がん検診(内視鏡検査)	個別	3,000	2,800
大腸がん検診	個別	500	300
	集団	500	200
肺がん検診	集団	400	300
乳がん検診 (マンモグラフィ検査)	個別1方向	1,200	1,000
	個別2方向	2,200	1,500
	集団1方向	1,200	600
	集団2方向	2,200	1,200
乳がん検診(超音波検査)	集団	1,200	600
子宮頸がん検診	個別	2,300	1,200
	集団	1,400	700

出典：健康医療部健康増進課提供資料

効果が高い検診

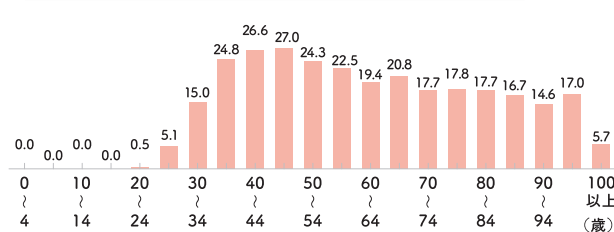
子宮頸がんの原因とされるHPV(ヒトパピローマウイルス)は性交渉によって感染しますが、50歳までに8割の女性が一度は感染するありふれたウイルスで、感染しても9割が免疫で自然排出されます。まれに感染が持続し、前がん病変になりますが、正常な細胞に戻る場合も多く、感染から子宮頸がんに至る割合はわずか0.15%と推定されています。また、子宮頸がんに至る場合も感染からは数年、時には10年以上かかります。性交渉を行う女性が2年に1回、子宮頸がん検診を受ければ、前がん病変の段階で発見できるため、子宮頸がんになる女性を確実に減らすことができます。

冷静に判断を

HPVワクチンを推進する製薬会社の広告が増えています。特に最近気になるのは若い女性の不安を煽る広告です。柏市の広報にも「(子宮頸がんは)20～40歳代の女性に多い」と記載されていましたが、罹患率を見ても死亡率を見ても、現状とずれのある誤解を生む表現です。データ上は20代の罹患率が昔より高いようですが、検診の対象を拡大し、早期発見に繋げることができた結果です。

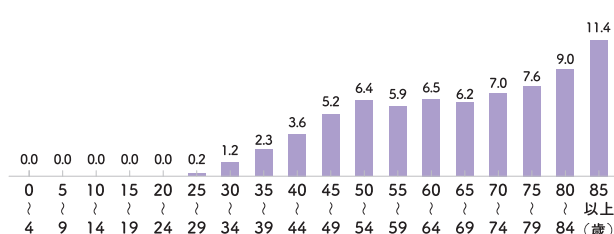
HPVワクチンで発がん型HPVを全て防げる訳ではありません。持続効果にも限りがあり、子宮頸がんの罹患率が高い40代まで持つのかわかりません。また、すでにHPVに感染している人には効果がありません。だからこそ性交渉未経験と思われる少女(小学校6年生～高校1年生)が定期接種の対象です。現在、接種勧奨されなかった世代を対象とした「キャッチアップ接種」が実施されていますが、性交渉経験の有無を問わず、20代後半にまで接種を広げるのは、あまりにも乱暴です。

子宮頸がん年齢階級別罹患率(人口10万人対)2020年



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計) 全国がん罹患データ(2016年～2020年)

子宮頸がん年齢階級別死亡率(人口10万人対)2023年



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計) 全国がん死亡データ(1958年～2023年)

重篤な副反応

今年1月の厚生科学審議会の資料によれば、これまでのHPVワクチンの副反応疑い報告は合計で4256件、重篤な報告は2485件に上ります。他の定期接種ワクチンの平均と比べると、それぞれ8.4倍、7.3倍という頻度です。HPVワクチンは、2013年に定期接種になってすぐ、重

篤な副反応症状が多数報告されたことで接種勧奨が控えられた経緯がありますが、その症状は不随意運動や脱力、突然の失神、激しい頭痛や全身の疼痛、視覚障害や記憶障害などが重層的に表れるもので、多くの女の子の人生を奪いました。症状の治療方法が確立していないため、当時から10年以上にわたって苦しむ女性が多数いて、被害者のうち117人は集団訴訟を起こして、現在も係争中です。



第105回厚生科学審議会
予防接種・ワクチン分科会
副反応検討部会資料
(2025年1月24日)

ワクチンより検診を

全国には厚労省が設置した協力医療機関があり、通常の医療機関では対応できない重い副反応症状の方が紹介されていますが、2022年に接種勧奨が再開されて以降、協力医療機関を新規受診する患者が急増しました。2023年には9価のシルガード9も定期接種に指定され、現在はこのワクチンを中心に接種が増え、比例して被害も増えています。

リスクが高いHPVワクチンを接種しないでください。性交渉を行う女性は、確実に子宮頸がんを減らすことができる検診を、2年に1回受けるようにしましょう。

答えは“主体的な学び”かも!

工藤勇一さんの講演会

2月、千代田区立麹町中学校や横浜創英中学・高等学校の元校長であり、有名な教育者である工藤勇一さんが、流山市のおおぐろの森中学校で行われるフォーラムで基調講演を行うと聞き、参加しました。工藤勇一さんのお話には、一見教育とは関係ないように見える様々な社会問題や、自分の中にあった疑問が全て1本の線でつながるような明快な理論があり、とても感銘を受けました。

YouTubeには工藤勇一さんの講演や対談の動画が多くありますので、ぜひご覧ください。

自律を育む主体的な学び

工藤勇一さんと言えば、宿題・定期テスト・固定担任制・服装指導の廃止や、自由進度学習の導入など、具体的な取り組みが話題になりましたが、その全ての取り組みの根底にあるのは主体性・当事者性・創造性という非認知能力を重視した、子どもの自律を育む教育改革です。

日本では長く、「何をどう教えるか」という大人目線での教育が考えられてきました。多くの子どもたちに効率的に知識を身につけさせるため、同じ年齢の子どもたちを黒板に向かって座らせ、ノートを取らせる一斉授業を行い、試験の点数を取ることを評価し、制服や校則で学生生活を縛ってきました。

しかし、押し付けられる学び方は、子どもたちから主体性を奪い、「良い子」を演じる子ども、言われたことしかできない子ども、自己肯定感の低い子どもを育てていきます。

変わるべきは学校

2023年度の小中学校の不登校は34万人に上り、年々増えています。現代の学校の仕組みに合わない子どもたちが、我慢して過ごしたり、学校を離れたりしてきたのが、これまでの日本の状況でしたが、今後は多様な子どもたちに合わせ、学校教育の方が変わっていかねばなりません。

今、日本の教育現場を変えようと、文科省は学習指導要領に「生きる力」を掲げ、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善を行うとしています。欧米ではすでに、子どもが主体的に学ぶ教育が主流になっています。子どもが自分に合った学び方を自己決定し、心理的安全性の中で自ら学んでいく教育へ、柏市でも変革することを求めました。

改革の幕開け

自分のペースで計画を立て、教科内容を学び進める“自由進度学習”を取り入れる学校が全国で増えています。柏市立富勢東小学校でも昨年度、5年生で算数・理科の単元内自由進度学習を実施したそうです。児童の学ぶ姿勢に良い変化が見られ、今年度は全学年で実施すると聞いています。他の学校の教職員も参観しているとのこと、今後の広がりに期待しています。

フォーラムの会場となったおおぐろの森中学校では「自律」を目標にして、宿題の強制を止め、校則を廃止したそうです。ぜひ柏市の学校でも検討してほしい取り組みです。



LINE相談・おはなし会

柏市へのご要望、暮らしの困りごとなど、公式LINEにてお気軽にご相談ください。議会報告会やおはなし会も開催いたします。ご希望の方はお問い合わせください。



再考のチャンス？

2年の延期

柏第一小学校と旭東小学校を柏中学校敷地に移転し、小中一貫教育を行う義務教育学校を新たに設置するという計画が、2023年9月に突然公表されました。子どもや保護者の意見を聞く前に統廃合を決定した経緯と、過大規模校になることへの懸念から、計画には反対の意思を示してきました。

今回の議会では、建設業の働き方改革の影響による工事期間の延長や、柏中学校の運営を止めないよう、グラウンドの先行整備をすることになったことを理由として、計画の2年延期が公表されました。開校予定は2030年4月になり、開校後に在籍する予定の子どもは4年生以下になります。



柏市公式サイト
柏中学校区
義務教育学校
設置計画ページ

教室不足、大丈夫？

新年度の予算審議では、開発地域の教室不足の問題が指摘されました。今年度、柏の葉小学校では3度目の増築工事を実施、移転新設してわずか2年の田中北小学校でも校舎リース工事を実施します。教室不足になった理由に、人口が推計より上振れしたことが挙げられましたが、北部中央地区（柏の葉駅周辺）に小学校2校を建設するはずだった当初の計画を、1校に見直した影響もあります。

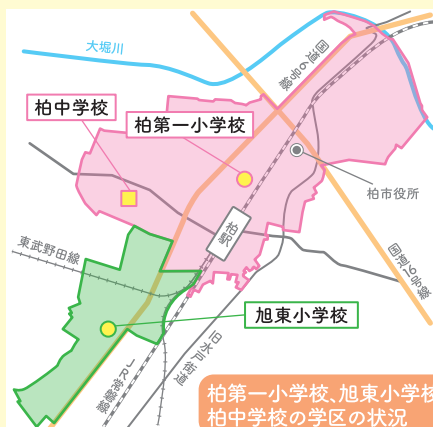
いずれ柏中学校区も同じ問題に直面するのではないのでしょうか。再開発で高層マンションが建設される可能性の

ある柏駅西口で、小学校2校を統廃合することは、教室不足が発生するリスクを高めます。そして、柏中学校敷地に増築できるスペースを残すことができるのか、大いに疑問です。

いっそ白紙に

教育委員会は「質の高い教育を実現するため、義務教育9年間を見通した小中一貫教育が重要」との姿勢を崩しませんが、小中一貫教育にそれほどの教育効果は見えません。全国で義務教育学校が増えているのは、子どもが減った地域の小学校と中学校を統廃合することで一定の学校規模にできること、また建設費や運営費を1校分に抑えられるからという側面が強く、大半が小規模校です。

1学年2～3クラス程度であれば、9学年でも大規模になり過ぎず、異年齢交流や柔軟なカリキュラム編成に期待が持てますが、1学年5クラス以上になる柏中学校区の義務教育学校計画では、小中一貫校の良さよりも、過大規模校のデメリットの方が強く出る恐れがあります。この機会に計画を白紙に戻し、校舎の老朽化が著しい柏第一小学校の移転新設計画に変更すべきと主張しました。



柏第一小学校、旭東小学校
柏中学校の学区の状況

食品ロスを減らそう！

フードドライブに協力を

日本では2022年度、約472万トンの食品ロスが発生したと推計されています。世界で排出されるCO₂の1/10が食品ロスに由来するとも言われていて、気候変動とも無関係ではありません。

柏市では2023年からリサイクルプラザリボン館で常設のフードドライブを行っています。寄付された食料品は市内のこども食堂や柏市地域支援センターあいネットに提供されています。昨年からはスクールソーシャルワーカーもこの食料品を利用できるようになりました。行政と民間が広く連携することで、食品ロスを減らして福祉につなげています。市内のフードドライブ実施場所は、柏市こども食堂連絡会の公式サイトに掲載していますので、ぜひ寄付にご協力ください。



柏市こども食堂
連絡会公式サイト

mottECOを応援！

日本の食品ロスの内、外食産業由来は約60万トンと言われています。環境省では飲食店での食品ロス削減を推進するため、食べ残しの持ち帰りを促す資材「mottECO（モッテコ）」を作っています。柏市内でもデニーズやロイヤルホストなどの協力店で利用されていますが、もっと広く利用されるように、杉並区や多摩市のようなmottECOの普及推進事業を行ってほしいと求めました。

食中毒防止のための取り組みが事業者の負担になるため、なかなか広がらないとのことでしたが、すでに実施している店舗から課題と解決法を学び、ハードルを越えてほしいと考えます。

ファミリーレストランで利用されているmottECOの箱。お子さんが食べ切れなかった食事を持ち帰るお客様が多い。



環境省公式サイト
mottECOページ